

仙台市立作並小学校



校長室だより

第3号

やさしい子
かしこい子
たくましい子

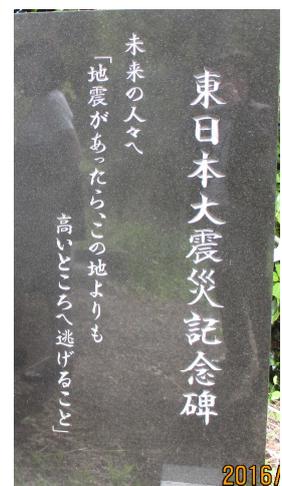
平成28年6月13日

宮城県沖地震から38年 避難訓練がありました。

6月2日(木)の3時間目に地震を想定した避難訓練が行われました。どの学年も真剣な表情で放送を聞いて、「お・は・し・も」の約束を守って校庭に素早く避難することができました。その後、「3.11から未来へ」という仙台版防災教育副読本を活用し、各学級で防災教育の授業が行われました。東日本大震災から5年、あの時、小学生だった子供たちは全員卒業しており、震災体験の記憶がない子供たちも増えてきます。いざという時に、しっかりと自分の身を守り安全を確保する自助の力、さらに、災害後の対応や地域の復興に協力し参画する共助の力をつけることが大切です。仙台市では、仙台版防災教育副読本を作成し、市内の全小中学校で防災教育に取り組んでいます。この、副読本は公益財団法人近野教育振興会 理事長 近野兼史さんからいただいています。これからも授業の中で活用していきたいと思えます。



先日、研修会で南三陸町立戸倉小学校を訪問する機会がありました。現在の戸倉小学校は、高台に新しく建てられていますが、震災当時は海岸から300mのところがありました。戸倉小学校では、地震が来たらすぐに高台に避難することが以前から決まっており、毎年訓練を行っていたそうです。震災の2日前の地震でも、近くの高台にすぐ避難したそうです。しかし、「津波到達時間が早い場合には高台までの避難に時間がかかるので、校舎の3階に避難してはどうだろうか」との意見が出たそうです。職員で話し合ったそうですが、結論が出ないまま2日後の東日本大震災が発生しました。先生方は迷わず、高台への避難を始めたそうです。その高台にも水が迫り、さらに上の神社の境内まで避難し、そこで一夜を過ごすことになりました。校舎は、屋上まですっかり水が来ており、3階教室に避難していたら助からなかったであろうとのことでした。避難した神社の参道には石碑が建立されていました。津波が到達した場所だそうです。「未来の人々へ」と書かれた石碑には、「地震があったら、この地よりも高いところへ逃げる」と記されていました。



6月12日、仙台市では、市内6カ所の小学校で総合防災訓練が行われました。今から38年前に発生した宮城県沖地震の日に毎年行われています。この機会に、それぞれのご家庭でもいざという時の対応を確認しておくことが大切だと感じました。